

ジオパークが室戸を変える

Road to Regeneration

小松 幹侍^{1*}, 植田 壮一郎¹, 岡田 哲也², 田中 圭一², 柴田 伊廣¹

Kenji Komatsu^{1*}, Ueta Soichiro¹, Okada Tetsuya², Tanaka Keiichi², Tadahiro Shibata¹

¹室戸ジオパーク推進協議会, ²室戸市役所

¹Muroto geopark promotion committee, ²Muroto city office

1. はじめに

室戸ジオパークは、2008年6月に「室戸ジオパーク推進協議会」が発足し、同年12月に日本ジオパークに認定された。その後、地元の関係団体や有識者、大学、研究機関、室戸市、高知県などが力を合わせて、GGN (Global Geoparks Network:世界ジオパークネットワーク) への貢献に向けて取り組んでいる。今回は、これまでの室戸ジオパークでの活動内容と、ジオパークの推進による市民の着実な変化について報告する。

2. 室戸ジオパークの特徴

室戸ジオパークの特徴は、「海と陸が出会い、新しい大地が誕生する最前線」をテーマに、1)プレート運動によって形成された堆積構造や変形構造から見る付加体のダイナミクス、2)海成段丘から見る氷期・間氷期の海水準変動、3)地震による隆起の証拠、の3つを実感できることである。

このように、地球表層の7割を占める海に目を向けることができるのは、室戸ジオパークの最大の魅力である。

また、その大地の上に育まれた自然、歴史、文化は、これまでに多くの観光客や研究者を魅了し続けている。

国の伝統的建造物群保存地区に指定された情緒あふれる町並みがあるだけでなく、国や県指定の天然記念物なども多数分布しており、さらに、海洋深層水の活用、備長炭や農作物の生産活動、漁業などの産業は、室戸の地形、気候、風土と密接な関係がある。

3. これまでの取組

ホームページや、ジオポイントがQRコードにより携帯サイトで楽しめるシステム、DVD、展示室を活用した国内外への情報発信に取り組んでおり、看板、遊歩道、駐車場も計画的に整備している。また、インフォメーションセンターは、観光客や研修者が気軽に立ち寄れるものにするよう準備中である。

市民参加型の取組も活発になっている。俳句大会や、写真コンテスト、ジオツアー、ガイド養成、吉良川町並み駅伝大会でのジオクイズ、地震火山こどもサマースクール (2010年8月)、室戸高校に全国的にも珍しいジオパーク学導入 (2011年から) などが代表例である。

また、県外の大学をはじめとする研究機関に、室戸での野外実習を働きかけ、専門家向けの「室戸地質遺産ガイドブック」を配布するなど、調査研究分野での交流拡大にも取り組んでいる。

4. 今後の展望

地元説明会や広報媒体を活用した情報発信に取り組んでいるため、市民から「これはジオポイ

ントになるのでは？」との問い合わせや、ジオツアーへの参加者が増加するなど、室戸ジオパークは目に見えて変化してきている。

今後も、交流人口の拡大をはじめとする地域振興や、学校教育・生涯学習・防災教育の充実に取り組んでいく。

また、市民グループ同士のつながりを大事にして、市民とともに室戸ジオパークを育てていき、世界中の子ども達が、地球の大切さを実感できるジオパークになることを目指す。これにより、地域資源の保護と持続的な地域振興につながり、GGN活動に貢献できると確信する。

キーワード:室戸,ジオパーク,付加体,地震,海成段丘

Keywords: Muroto, geopark, accretionary prism, earthquake, marin terrace